【山崎名誉主宰の俳句】

さくらのあと

山崎　聰

雨の夜はとろりとろりと榾明り

冬眠の百日あまり父と母

つと加齢また雪が降りすぐ止んで

灯の先に少年少女春はいつ

きのうきょう藁屋に籠り木の芽雨

もうすこし待って菜の花ひらくまで

圧倒的多数といえば春の星

よもすがらちちちよははよと春の雷

なにもせず何も起らず春の地震（ない）

老後か死後かさくらのあとの静寂か